

| | | | |
|---------|------------------------------|---------|----------|
| 教育目標: | ◎仲良く助け合う子 | ○よく考える子 | ○体をきたえる子 |
| めざす学校像: | ・子供たちが主体的に学び、豊かにかかわりあう学校 | | |
| めざす児童像: | ・自分も人も大切に、互いに理解し協力して、豊かに生きる子 | | |
| めざす教師像: | ・自ら学ぶ教師 | | |
| | ・教育への情熱と子どもへの愛情あふれる教師 | | |
| | ・子ども・保護者・地域に信頼される教師 | | |

| 領域 | 中期目標 | 短期目標 | 具体的方策 | 努力指標 (中間) | 努力指標 (最終) | 成果指標 (中間) | 成果指標 (最終) | 分析コメント | 改善策 |
|-----------|--|--|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--|
| 学力の向上 | 基礎的・基本的な力を確実に身に付けさせ、確かな学力(知識・技能、思考力・判断力・表現力・学習に向かう力)を育成する。 | ・問題解決的な学習過程を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。 | ・学習規律の徹底を図るとともに、めあて、まとめ、振り返りの明示を行い、「分かった」「できた」を実感できる授業を行う。 | 4 | 4 | 3 | 4 | ○中間評価に引き続き、最終評価でも努力指標が4となり、学校全体での実践の成果となった。 ○中間での成果指標が3だったのに対し、最終では4と向上した。「分からない」という回答も3%に減少した。 | ・学習規律と授業改善は基本なので、この評価が来年度以降も継続されるように、引き続き校内研究等を通して徹底していく。 ・研究推進委員会を中心に行っている、教員どうして授業を見合う取り組みを継続して行う。 |
| | | ・言語活動の充実を通して、基礎・基本の学力定着と意欲向上につなげる。 | ・児童が自分の考えをもち、それを友達と共有しながら学びを深める、話し合いやグループ活動の場を意図的に取り入れた授業を行う。 | 4 | 4 | 3 | 3 | ○努力指標が4と、教員が話し合いやグループ活動を意識的に学習の活動の中に取り入れた授業を行っていることが分かる。 △努力指標に対して、成果指標が3と差がある。自分の考えを持つことができても、友達に伝えることが苦手な児童が一定数いる事が分かる。 | ・引き続き、話し合い活動やグループ学習の場を意図的に取り入れ、児童が自分の考えを交流させながら学習を進めることができるようにしていく。 ・児童が自分の考えや意見をもつことができるような、丁寧な学習の流れを組み立て、児童が自分の考えに自信をもって発表したり話あったりできるように授業改善を行っていく。 |
| | | ・学習環境の整備とICT・タブレット型パソコンを活用した授業を推進する。 | ・ICT機器やタブレット型パソコンを効果的に活用した、分かりやすい授業を行い、児童の確かな学力を育成する。 | 1 | 2 | 2 | 3 | ○努力指標、成果指標ともに1ずつ向上しており、中間評価以降ICTを活用した授業実践に改善が見られたことがわかる。 △改善はみられたものの、他の項目に比べると低い水準にある。特に教員アンケートでは、授業内での活用が確かな学力の育成につながる活用内容であったかという項目に対して否定的な意見が多くみられる。 | ・情報部を中心にOJT等の研修を通して、各教員がICTを活用している例を紹介し合う。 ・情報活用、問題解決、表現の力を育成する指導を系統的に行う。 ・算数の習熟や復習のため学びポケットの活用を充実させる。 |
| 豊かな人間性の育成 | 規範意識や正しい言動、お互いの人権と人を思いやる心や態度を育てる。 | ・自分を見つめ相手認め、互いに尊重し合う意識を育成する。 | ・ふれあい月間の取組や、いじめ防止授業を行うことで、いじめの早期発見・未然防止に努める。 | 4 | 4 | 3 | 3 | ○中間評価で昨年度から向上した努力指標を、最終評価でも継続して3とすることができた。努力指標も年間を通して4となった。 △中間に引き続き、保護者の「分からない」という回答が17%と多い。 | ・来年度も引き続き、いじめの早期発見、対応を行うためにふれあい月間の取組やいじめ防止授業に取り組む。 ・本校の取組を保護者に理解していただくために、ブログや学校だよりを通じて周知していくようにする。 |
| | | ・基本的な生活習慣の定着を図り、規律ある学校づくりを行う。 | ・六小のきまりを通して、基本的な生活習慣の定着を図ることで、児童が互いを思いやりながら、安心して過ごせる環境をつくる。 | 4 | 4 | 4 | 4 | ○年間を通して両方の指標が4となり、学校全体で一貫した取組が児童の意識付けにもつながっていることが分かる。 △成果指標も4と高数値ではあるが、日常の児童の様子をみていると細かな決まりを守ることができていない場面もまだある。 | ・引き続き生活指導部を中心に校内で一貫した指導を行っていくことで、全ての児童が安心して過ごせる学校づくりを推進する。 ・年度当初に教員、児童ともに六小のきまりを確認し継続して行っていく。 ・生活指導夕会を通じて、週の課題を共有し、生活習慣の定着を図る。 |
| 体力の向上 | 運動に向かう姿勢や基礎的な体力を育み、心身共に健康な子供を育てる。 | ・体育の授業改善および運動に親しむ環境づくりを推進する。 | ・運動時間25分以上確保した体育授業を実施する。休み時間の外遊びの促進や、各種体育週間を実施することで、日常的な運動習慣を育てる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | ○授業内での運動時間の確保に関して教員の肯定的回答が高い △休み時間の外遊び等の推進による運動習慣の育成に関して、否定的意見が24%と多く、教員によって偏りがあり意識が低いことが分かった。 | ・年度当初に学校経営計画と関連させて、体力向上に関する項目を全教員で確認して意識をもつ。 ・体力テストの結果を分析し、児童の実態を把握し、課題に応じた取組を習慣化する。 |
| 家庭・地域との連携 | 地域に学び貢献する子を育成する。学校・家庭・地域が一体となった開かれた学校をつくる。 | ・地域の方や諸施設との交流を活発化し、地域に学び貢献する子を育成する。 ・学校での児童の様子や学校の取り組みを、家庭や地域へ発信することで、開かれた学校づくりを行う。 | ・地域の方との関わりや諸施設の活用、地域の特色を生かした農園活動を通して、地域と児童がつながる機会をつくる。 | 3 | 3 | 3 | 3 | ○本校では、地域の特色を生かした農園活動を盛んに行っており、今年度も年間を通して地域との関りをもつ機会を作ることができた。 △地域施設を活用した学習や、農園活動は、取り組んでいる学年が低中学年に集中しており、高学年での取り組み頻度が低いことが課題である。 | ・来年度から実施の国分寺学と関連付けて、年間指導計画を見直し、地域の特色や地域人材を生かして地域と関わりながら学ぶ機会を意図的に設定していく。 ・どの学年でも、学習の中で地域の材を活用し地域と関わりながら学習する機会を検討し、「例年やっていないから行かない」のではなく積極的に活用する機会を教員が見つけていく。 |
| | | | ・学校だより、学級だより、ブログやホームページを活用し、学校からの情報を発信する。 | 3 | 3 | 4 | 4 | ○今年度は年間を通して、成果指標が4と昨年度の課題を受けて成果が出た。学校だよりやブログを活用し、頻りに情報発信を行う環境ができ、学年や分掌の担当が意識して取り組むことができた。 | ・ブログ更新計画を作成し、どの記事を誰が作成するのかを明確にする。 ・教員が誰でもブログ更新を行うことができるように、年度当初に経営支援部が担当して、ブログ更新方法の研修会を行う。 |